

2023年4月21日 第3427回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
<斉 唱> 「我等の生業」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
<ゲスト紹介> *(一社)国際多文化研修ラボ 代表理事 松本 義弘 様
<会長報告> *ガバナー事務所より
- ・2023-24年度地区役員・委員会委員（正副委員長含む）
ご就任委嘱の件について（追加）
地区公共イメージ委員会 委員 中村 清乃
青少年交換委員会 委員 物井 宏介
米山奨学委員会 委員 比護 友一
 - ・地区ローターアクト委員会開催のご案内について
5月14日(日) 13:00~14:30
場所：第一相澤ビル8F「会議室」およびZoom
- *横須賀西ロータリークラブ主催 第14回チャリティーコンサート
「命輝かすためにも 子ども達に明るい未来を」
日時：4月29日(土) 開場：13:00 開演：13:30
場所：金谷山 大明寺

- <委員長報告> *つり同好会事務局 加藤 勲 会員よりご案内
<幹事報告> *第11回第1グループ会長・幹事会 報告
*第9回理事役員会 報告
*ガバナー月信 NO.10
*週報・・横須賀北RC・横須賀西RCより受領

- <次年度幹事報告> *次年度 鈴木 佳 幹事より
- ・2023地区研修協議会について
4月23(日) 東海大学平塚キャンパスにおいて開催
 - ・「現次・委員長会議」
4月28日(金) 18:30~ 横須賀平安閣において開催

- <出席報告> *出席委員会 加藤(淳)委員より4月21日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
113名	103名	71名(1名)	32名	8名	76.70%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 国際多文化研修ラボ代表理事 松本義弘様、本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- ・椿、梁井、小林(-)、松岡、比護、田村、大石、杉浦、石田、松本勲、福西、前川、小平、新倉(側)、齋藤(眞)、大野(徳)、勝間、畑、濱田、藤村、八木、江口、江沢、上林、澤田、野坂、根岸、田邊、三堀、小林(勲)、加賀本、曾我、徳永、鈴木(勲)、小沢、齋藤(眞)、小山(勲)、杵淵、波島 各会員
国際多文化研修ラボ代表理事 松本義弘様、本日は横須賀RCにお越し戴きありがとうございます。卓話も大変楽しみにしています。宜しくお願いします。
- ・若麻績、三堀 両会員 誕生月祝いとして
- ・若麻績 会員 入会月祝いとして
- ・前田、長島、岡田(佳)、南、児玉、加藤(勲)、齋藤(眞)、中村(勲)、大野(徳)、勝間、濱田、猿丸、八巻、鈴木(豊)、笠木、角井 各会員
横須賀ご当地グルメ「よこすか海軍カレー」がお弁当として全国約21000店のセブンイレブンで本日より発売しています。カレーの街よこすか事業者部会でご活躍の瀬戸会員、

ヤチヨの鈴木孝博会員頑張って下さい！

- ・小山(夤) 会員 本日のタウンニュースに掲載されていましたが県立横須賀工業高校に4月から建築科が開設されました。建設業協会と連携したプログラムでは比護会員が協力しています。建設業界の発展に期待しています。
- ・物井、梁井 両会員 北村会員が5月12日開催予定の2番テーブルミーティング出席を目指してリハビリ中です。皆で温かい一言を色紙に書いて応援しましょう。

<卓 話> 【地域社会を豊かにする多文化共生と『やさしい日本語』】
～ みんな違ってみんないい～

(一社)国際多文化研修ラボ 代表理事
(一財)自治体国際化協会 (CLAIR) 地域国際化推進アドバイザー
(一社)日本フェアトレード・フォーラム (FTFJ) 認定委員
防災士(認定特定非営利活動法人) 日本防災士機構認証
松本義弘様

ご紹介頂きました松本義弘でございます。地域社会を豊かにする多文化共生とやさしい日本語～みんな違ってみんないい～と副題をつけさせて頂いております。多文化共生とかやさしい日本語とか、そういう言葉は、あまり耳にしないのではないかと思います。まず私の自己紹介として昨年の2月16日に法人登記を行いまして一般社団法人国際多文化研究ラボを立ち上げ、代表理事に就任しました。もう1つは総務省の外郭団体の一般社団法人自治体国際化協会の地域国際化推進アドバイザーを2008年から15年ほど続けて務めています。また、もう1つは日本防災士機構の認定であります防災士として活動しております。国際多文化研究ラボでは国際人財の受け入れ、共生、フェアトレード、持続可能な社会実現今で言うSDGsのことです、ジェンダーを越えた社会参画やジェンダーとはどういう事かを大学から保育園までなどいろいろな所で紹介しております。総務省の外郭団体としては自治体の職員を対象に外国人に伝える、伝わるやさしい日本語、多文化共生の街づくり研修、行政とNPO、NGOとの連携やさまざまなワークショップを行っております。防災士としては災害時の外国人支援、地域の防災意識の向上研修をしております。



早速ですが、20世紀後半に色鉛筆やクレヨンからある色の名前がなくなりました。それは「肌色」です。日本では、2000年にトンボ鉛筆・三菱鉛筆・サクラクレパスが協議の結果として「はだいろ(肌色)」の呼称を「うすだいたい」に切り替えたのを契機に、「肌色」の呼称を取りやめる動きが広がり、2005年から2006年頃には全てのクレヨンからこの呼称が撤廃されました。

今は「うすだいたい」「パールオレンジ」と言われていますが、肌の色はそれだけではないです。

ジオットというイタリアの文具メーカーのスキントーンズという色鉛筆を見つけました。肌のトーンズ色—COLORS FROM THE WORLD—世界中からという12色全部肌色の色鉛筆です。



何が言いたいかというと、肌の色ってさまざまということで色調名称としては適切ではない表現として使用を控えられつつあり、人種差別に対する問題意識から、人種・個人差・日焼けの度合いによって肌の色は異なるのに特定の色を肌色と規定することはおかしい、としてこの名称を避けるべきということです。

視点を変えまして、ある結婚披露宴の料理メニューをご覧いただきたいと思います。お刺身がひらめのソテーに、ローストビーフがウェルダンスステーキになっています。飲み物がルイボスティー、ノンカフェインコーヒー、ハーブティーから選べます。これに加えてブランケット、クッションが付きます。これは披露宴出席者の妊婦さんのための気遣いということで、今はこれが当たり前になっているということです。これも実は多文化のうちの一つです。多文化共生とは総務省が2006年に研究会報告書として定義をしています。国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとして共に生きていくことということですが、今ではこれがもっと多様化しています。国籍や民族だけではなく、例えば世界196カ国の中で、言語数というのは6,000から8,000あると言われています。すごい言葉の数です。言語の違い、そして多くの紛争とか戦争の引き金になっている宗教の違い、習慣やマナーの違い、そしてここでジェンダーが出てきます。昔は男性と女性、四半世紀前の国会議員がよく言っていました。「男と女しかいないのだから仲良く暮らさない」と言ったら現在ではNGです。

私たち人間には、さまざまな性の形があります。男性、女性という二軸だけではない考え方で議論を進める必要があるでしょう。「性の多様性」とは、要するに「人間の性のあり方は数多く存在する」という意味で捉えるとわかりやすのではないのでしょうか。LGBTとは、レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーという4のセクシュアリティの頭文字から構成されている言葉です。しかし、セクシュアリティは多様とお伝えしたように、LGBTが全てを包括しているわけではありません。そこで出てくるのがLGBTQ+という言葉です。しかし、LGBTだけではほかのセクシュアリティの存在が隠れてしまっている…。そういった意味から、LGBT以下にほかのセクシュアリティを加えた言葉が生まれてきたのです。LGBTの後に加えられている「Q+」という言葉。それぞれの意味についてわかりやすく解説していきたいと思います。「Q」は、「クエスチョニング」と「クィア」という2つのセクシュアリティに該当します。クエスチョニングとは、性自認や性的指向を決められない、決めていない、迷っているという状態のセクシュアリティ。クィアは、同性愛者などに向けて「風変わり」といった意味合いで使われていた言葉ですが、それらを肯定的に捉えた言葉。同性愛者になる人など、そういった意味でも使われているセクシュアリティです。

LGBTQまでは、各セクシュアリティの頭文字から構成されています。しかし、最後のひとこと「+」だけは、何か特定のセクシュアリティを表している言葉ではありません。先にセクシュアリティは多様であり、LGBTだけでは包括できないとお伝えしました。LGBTQという言葉であっても、全てのセクシュアリティを包括できていないことは確かです。それに加えられている「+」という文字は、「これらのほかにもさまざまなセクシュアリティがある」ということを意味するために使われているのです。

そして、世代・ジェネレーション以前は30年を1世代1ジェネレーションというふうにかウントしていました。現在でもそういうカウントが生きていますが、どうでしょう。皆さん体感的に世代の違いってもっと短くなっている感じがしませんでしょうか。特に言葉はこの30年よりもっと短いスパンで選び方が変わっているかもしれません。そして障がいの有無、また妊娠している・していない。先ほど紹介したように妊婦さんのケアも大きくなっていますが、不妊治療をしている方の気持ちを害さないようにということでも事さらに殊更妊婦さんを持ち上げたりすることもしません。そんな考え方になっているというのが多文化共生の基本的なところではあります。

もはや追いつかないという中で例をお伝えしたいと思います。2015年駐日のデンマーク大使が退任するとき、通例ではご夫妻で天皇陛下の謁見を得ますが、このときのデンマーク大使は男性で配偶者も男性でした。そのときのデンマークの法律では、同性婚がしっかりと明文化され、認められていましたが、大使のみの謁見となり、配偶者の方は、天皇陛下の謁見にかなわなかったということです。もう一つ、第58回紅白歌合戦での出来事です。一青窈が、大学生時代のサークルの友人と共に手話を行いながら名曲「ハナミズキ」を披露しました。その最後サビのときにマイクを置いて手話で熱唱しました。メディアは絶賛しましたが、私はちょっと凍りつきました。どうしてか、ラジオに耳を傾けていた視覚障がい者は、実況と伴奏しか聞こえないのです。ご本人の歌は聞こえなかったですね。これは「チャンネルの置き換え」といって多文化共生ではご法度です。つまり、音声で伝える伝え方を視覚で伝えることに切り替えてしまいました。本当であればチャンネルは増やすべきです。では、どうすれば良かったかというと、マイクスタンドにマイクを立てて、それで手話と歌声でお届けすれば良く、これを切り替えるということが大きな危険性を生んだという1つの例でした。今、外国人が抱える3つの壁をこれからご紹介しますが、多文化共生とはどういうところ

で考え方が出てくるのかなということをご紹介したいと思います。例えばコラボってよくありますよね。コラボレーション、コラボっていうのは、実はそれ自体が多文化共生です。JVといわれるジョイントベンチャーなどもそうです。ジョイントベンチャーを組んで1つの大きな仕事を成し遂げようというのが実は多文化共生のビジネスの具体例でもあります。そこで、今度は分かりやすいように、外国人に視点を移して外国人が抱える3つの壁についてご紹介したいと思います。

まず、1つ目が言葉の壁です。2つ目が制度の壁、3つ目が心の壁ということです。言葉の壁というのは例えば、日本語が話せないとか、読めないとかです。話せるのですが、読めないという外国人がとても多いです。書き言葉、読み言葉というのはなかなかハードルが高いということですね。もう1つに知識経験、例えば地震の経験がないとか、グラツときたときに空襲かと思うのですよね。爆撃かと思う人のほうが多いということがあります。制度の壁って何のことかという、在留資格というのが外国人にあって、その資格に応じて在留期間が決まっています。これが切れる恐怖というのがすごく大きいのです。特に災害のときにはその手続きに行けませんので非常な恐怖になるのですね。それと同時に、人生の出来事、大きな出来事、例えば子どもが生まれたり、結婚したり、離婚したり、そのときに大使館とか領事館に行かなければいけないというのはもちろん、子どもが生まれれば日本の市役所とか区役所に行き、出生届を出します。しかし、それで終わりではないのです。その後その子がどんな在留資格があるかとか、どういう選択をするかとか、そういうことがあって必ず面倒くさいことが出てくるといことです。心の壁は相談できる友達とか親戚親族が近くにいない。これは容易に想像がつくのです。日本に住む外国人が差別を受けていると感じる“あるある”の一つに「電車やバスに乗ると、混んでいるけど自分の隣の席が空きやすい」ということがあります。もう1つ、日本語で話していると「私、日本の車大好きです。トヨタ、日産、ホンダ（ホンダの事）」って言うとき聞き手はざわつきます。ホンダ？日本人の耳は意地悪ってよく言われますが、車の話をしている、トヨタ、日産まで言っていてホンダがダイハツのことですかかっていう話です。ホンダに決まっていますよね。それを必ずざわついてホンダですって言うんです。これは結構差別として感じている例です。これが実は心の壁としてあるということです。世界で英語を話せる人は（母国語で話す人を除く）勉強して話す人も含めて何割ぐらいいるのでしょうか。19.4%です。日本に暮らす外国人で、ひらがなが読める割合ってどれぐらいでしょうか。話せると読めると、ずいぶん違うという話です。この中には永住者といわれる外国人の数は入っていません。入れないで6割はひらがなが読めると言っています。そうするとひらがなで発信することはとても大事ですよっていう話になります。もう1つ外国人って支えられる人ばかりなのっていう質問です。27,249人これが実は経営管理の在留資格を持つ中長期在留資格者です。このカウントのときの外国人数は280万人でしたから1%が経営者ということです。このデータは日本政策金融公庫のレポートです。日本政策金融公庫が大きな融資をする相手先に外国人考えているってことです。40歳以上の入国者の75%、つまり4人のうち3人は経営するために日本に来ています。したがって、もはや外国人は、支援される人たちではなくて地域社会の担い手になっているということが言えると思います。多様な人々が暮らしやすい環境というのが大切で、環境っていうのは、基本とか設備とか証明書とかそういうことではなくてツールという考え方もあると思います。暮らしやすい環境の一つとしてコミュニケーションツールがあるのでないでしょうか。その提案としてやさしい日本語というのがあります。やさしい日本語と急に言われても何がやさしくて何がやさしくないのか分からないので、少し整理をしています。言葉には大きく4つの種類があります。私が今、音声の力、マイクの力を借りて皆さんにお伝えしているのが「話し言葉」です。それを皆さんは耳と頭で聞いています。「聞き言葉」と言います。このスライドのように文字にして伝えている言葉は「書き言葉」と言います。それを皆さんは目と頭で読んでるのは「読み言葉」です。その他では、打ち言葉、触り言葉っていったら投票所には必ず用意してあります点字ですね。話し言葉、書き言葉というのは耳にしたり目にしたりしたことがあると思いますが、一方で聞き言葉、読み言葉というのは、あまり目にしたり目にしたりしない、なぜかということなんですね。実は我々は発信者としてコミュニケーションに携わっていることが多いです。ただ言葉の先には必ず受信者がいる、そして受信者に伝える。伝わるということを第一に考えましょうというのは、まずはやさしい日本語の基本的な姿勢であります。やさしい日本語をひらがなで書いてあるのはどうしてかという理由ですね。

容易の易と優秀の優この漢字二つを合わせて意味するためにひらがなでやさしい日本語と表記をしています。この反対の意味は何でしょうか、容易の易の反対は難しい日本語になります。やさしいの反対、不親切ということですね。不親切な日本語っていうのが優しくないということですね。具体的に見ていくと、難しい日本語ってどんな日本語ですか。これ意識するだけでぐんと変わるので一つ二つを覚えていただくと大変ありがたいと思います。一文が長い、漢字が多い、敬語、丁寧語が使われているだけでハードルがぐんと上がります。「住所を教えてください」、これは○です。通じます。「お住まいはどちらですか?」という意味

ですが、こちらは通じにくくなります。カタカナや外来語が多い。専門用語が入っている。これを役所行くとお役所言葉と言われるということです。外来語の不親切な日本語ってどんな日本語でしょうか。これもよく言われます。まず文字が小さくて読みづらい、そして次は我が国が世界196カ国の中でナンバーワンを持っている特徴であります。声が小さくてよく聞こえない。外国人に限らず。「はいっ？」て、聞き返されたときにどういうふうにしますか。今自分が言ったことの説明をしませんか。でもそれは正解ではないです。声が小さくて聞き取れなかっただけなので、ゆっくりと大きな声ではっきりと言った言葉を繰り返すだけで、90%以上は解決しますということですね。それから、たくさんの内容が詰まっている。これは不親切ですね。一文は短く、漢字は少なく、尊敬語は使わない。文字も大きく、声も大きく、そしてたくさんの内容ではなくて少しずつ刻んで出す。内容ははっきりということ。「今度のロータリーの卓話だけどね、君が特に行く必要があるとは言えないかもしれないね。」と私が言われたとします。私が今日の卓話に来られる可能性は何パーセントありますかということですね。これ、実は上司が「行くな」と言っているのです。「その日ね。職場の人数が少なくなっちゃって、仕事にならないから行かないでくれ」と言える勇気を持ってほしいということです。言い方でずいぶん変わるということですね。伝える相手に分かれやすい日本語が、優しい日本語です。矛盾のようですが、優しい日本語には正解がなく、正解がたくさんあるということですね。目安としては1,500語の語彙です。中学校の3年間で学ぶ英語の語彙が1,500語です。だから、中学校卒業したての高校1年生が話せる、読める、書ける英語の語彙とほぼ同じということです。「無料です」を優しい日本語で言い換えると「お金はいりません」というようになります。「お金はかかりません」と思った人もいると思いますが、「かかる」というのは、壁に絵がかかるなどいろんな意味を持ちます。いるかいないかが必要か必要でないか、1つだけ表す言葉なのでいりませんとやるということですね文字で書くとゼロ円と書くのが結構説得力があります。もう一つは停電です。「電気が止まります」では良いとは言えません。どうしてかという、これは東京電力の方が言う話です。生活者として見たら「電気が使えません」となります。冷蔵庫の中の物を早く食べてくださいみたいな話になります。真冬であれば、毛布とか布団を多く出しておいってくださいということになります。これが優しい日本語の考え方。「担当の松本と申します」担当者というのはこの仕事をする人という意味ですが、実際に使うときにはどうしましょうかという、例として「私があなたの話をよく聞きます。私の名前は松本です」と言うと伝わるのではないか。これが相手の立場に立った優しい日本語ということになります。

「わたしと小鳥とすずと」という、本日のお話の副題です。こんな詩なので読ませていただきます。『私が両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように地面を速くは走れない。私がからだを揺すってもきれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のようにたくさんな歌は知らないよ。鈴と小鳥とそれから私みんな違ってみんないい』

ここで気がついてほしいのは、この詩の題が最後に変わっているということです。「私と小鳥と鈴」だったのが「鈴と小鳥と私」に変わっています。これはいろんな価値見方をもう一度見ることによって順番は無いということを行っています。私が所属する国際文化研修ラボのホームページの最初の文が「みんな違って、みんないい」というところから始まっております。ちょっとだけ明日の話の役に立つなと思ったら、ホームページを覗いていただければと思います。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 杉浦 浩子